

会員だより

泉を求めて

醒ヶ井(さめがい)へ

主人の次の俳句の兼題「泉」を探して、JR東海道線米原よりひと駅先の醒ヶ井に行ってきました。現在は梅花藻や養鱒場で有名ですが、ここは京都より一泊目の中山道の本宿として重要な個所でした。



宿場問屋場江戸時代の建物現存

旧街道筋には江戸時代の問屋場(現在資料館)や旧郵便局、村立小学校玄関などが残っていたり、今も醤油や菓子屋さんなどの老舗があります。特に問屋場とは昔の役所で、大名や役人に馬や人足を提供したり荷物の手配を行い、こんなに完全な形で残っているのは珍しいそうです。



問屋場内部、大名や役人に馬・人足等提供

私たちの本来の目的の「泉」は旧街道脇に流れる地蔵川の敷か所にあります。ガイドには七湧水巡りとありますがこれらの湧水は鈴鹿山系の北端に位置する霊山に降り注いだ雨が長い年月をかけて地下を流れ、その麓から湧き出ている泉です。そのうち居醒(いさめ)の清水、十王水、西行水をまわってきました。



中山道醒ヶ井宿地蔵川沿い梅花藻がそよく

その川中には14℃前後の清流しか生息しない梅花藻がそよそよとそよいでいます。7月下旬に白い小さい梅に似た花を川の中に咲かせますがこの時期にはこの花は見られませんでした。でも清らかな川に手を浸し、清水をもとにした醤油や羊羹を土産にして大満足でした。いつまでもこの清流を保って欲しいものです。

余談ですが、高槻にも昔より親しまれた古曽部の「不老水」の湧き水があります。能因法師がお茶をたてるのにこの水を愛したとか、老化を憂いて毎日愛飲したとか。今はトタン板で覆われ、飲料水には不向きと案内があります。住宅に囲まれた様子ではさもありなしと思われる野辺の一隅でした。

記・写真・上村サト子

落花生の収穫祭が楽しみ

デジブックで「6月夏野菜の豊かな農園」を見せていただきました。素戔嗚尊神社や周辺の田畑やらを見て、昔あの辺を健康のために歩いたことがあり、ほんとは懐かしく、たまらない



6月のトマトは栄養豊富で美味しい

郷愁を感じました。素晴らしい農園ですね。その種類の多さもさることながら、一つ一つの見事な出来栄に感心しました。

春菊を見ると、これを入れてすき焼きが食べたいなとか、トマトを見るとこれを生野菜のサラダに欲しいなとか、つい食い意地に走ってしまいます。西瓜もおいしそうだし、また野菜の花も美しいものですね。あまりガーデニングに縁のなかつた私ですので、胡瓜や茄子の花は知っています。たが、その他は初めて見ました。

植えられています。まだ空いている場所があるので植えさせてもらいました。それから毎日水をやったり葉を整えたりして育てています。入居者のみんなにも、もし出来たら収穫祭をして皆さんにご馳走しますと大見えを切っているのです。ちなみに種を蒔いたのは10粒で、発芽したのは6本です。4〜5日に1回写真撮ってそのうち落花生育成日記を作ろうと思っています。



落花生の苗

説明書によりますと、1ヶ月半くらいで花が咲くと書いてあるのに、まだその気配はありません。実は肥料を全然やっていないのです。農園に落花生があったので、教えてもらいたいなと思っています。今は25センチくらいになっています。成功して収穫してから写真入りで投稿しようと思っていたのですがどうなりますやら。

記・写真・上村サト子

四季彩

ユウゲシヨウ

(赤花夕化粧)



5月から9月頃まで道端や空き地、川原で良く見かける草花です。茎は20〜50cmくらいで、その先に淡いピンクの4枚の花弁の花をつけます。余りにポピュラーな花で気にも留めていませんでしたが、植物図鑑でその名を知って、可愛らしさを感じ、毎日の散歩の際、愛でていました。

名の本来は夕方から咲くことによるが、現在では昼間から咲いている。夕方になると萎んでピンク色を濃くするからだろうか。明治時代に北アメリカから観賞用として渡来、現在は野生化している。おしろいばなも夕化粧の名を持ち、区別する為、アカバナとつけている。



記・写真・上村サト子